

麒麟獅子舞(きりんししまい) 仙法志長浜

仙法志の長浜に伝わった麒麟獅子は、1908(明治41)年に鳥取県鳥取市里仁から森本金太郎によって持ち込まれたものといわれています。舞ったのは、鳥取市秋里からの移住者でしたが、1918(大正7)年に最後に途絶えてしまいました。その後、1991(平成3)年になって長浜神社で確認され、鳥取市秋里にある荒木三嶋神社の伝統文化保存会から舞の復活について打診がありました。それを受けて、長浜にかかわる若い人たちが利尻麒麟獅子舞う会を起ち上げ、2003(平成15)年に秋里から指導者が来島、翌年1月には利尻から秋里に行き舞を習得しました。同年6月20日、長浜神社の祭典において、ほぼ百年ぶりに復活し、以後祭典や特別養護老人ホームなどで舞われています。2008(平成20)年には利尻ならではのオリジナルの舞を創り、2010(平成22)年には、新しい獅子頭と猩々面が寄贈されています。



写真上二枚は2003(平成15)年6月20日のほぼ百年ぶりの復活。下一枚は2019(令和元)年6月20日の舞。

